

バリ島サンライズ・トレッキング下見報告

東葛山の会 安彦 秀夫

5月13日(水)～19日(火)＜6泊7日＞に、東葛山の会の10名で、『千葉県連創立50周年記念海外登山：バリ島サンライズ・トレッキング』の下見に行ってきました。数多くの予期せぬ出来事に遭遇しましたが、今回は、その中で、3日間のトレッキングの様子を報告させていただきます。



**バトゥール山山頂より『バトゥール湖』と『アバン山』そして日の出を見ている登山者『アゲン山』は、『アバン山』の真後ろで重なっています。
登山者の手前(左端)に居るのは、同行者です。**

＜1＞ 5月14日(木)バトゥール山トレッキング(2日目)

仮眠も満足に取れないまま、ホテルをチャーターバスにて登山口に向けて出発。前夜、登山ガイドの打合せをした『プランジャティ村登山口』に着くと、物凄い数の人・ひと・ヒト……。国民の祝日で、多くの若者がバトゥール山山頂を目指すようだ。

若い登山ガイド3人、旅行会社の小室会長と日本語ガイドの Mr.ワスパ、そして私達10名の総勢15名で、ヘッドライトの灯りを頼りに歩き出す。山頂で食べる朝食弁当は、登山ガイドがみんなの分を背負ってくれている。楽ちん！

広い緩やかな道を進む。徐々に細くなり、登山道に入る。次第に傾斜もきつくなる。地元の若者のグループが、どんどん私達を追い越していく。日本であれば、『比較的広い所で、先行者に譲ってもらってから追い越す…』のが一般的なのに、バリ島の山では、そんなことはお構いなしのようだ。

見上げれば、ヘッドライトや懐中電灯の灯りが、一列に、黒い山陰の上まで続いている。振り返れば、『バトゥール湖』や『アバン山(2153m)』が黒く見え、かすかに光るキンタマーニ高原の街灯りも望まれる。

『パストップ小屋』、『パサラゲン寺院』と過ぎ、『第一小屋(?)』で休憩する。山頂まで20分ほどということで、同じ休憩をするなら山頂が良いと思い、小屋を出る。しかし、既に登山道は先行者でごった返しており、思うように前に進めない。

やっと山頂の一角に着き、多くの登山者に紛れて、私達もなんとか陣取り、ご来光を待つ。東の空が赤くなり、雲間から太陽が顔を出し、登りの辛かったことを忘れ、南国のご来光に見とれる。その後、窪地で朝食を立ったまま食べる。

『山頂クレーターを一周できるか…?』の問いに、『あなたたち次第です!』と、登山ガイド。多くの先行者の人影が見えるので、私達も一周することにする。あちこちから水蒸気が噴き出しており、ゆで卵を作っている人もいる。

大噴火時の黒々とした溶岩流の痕跡を眼下に見ながら、急なガレ道を慎重に下り、火

口を一周して『パストップ小屋』に戻る。猿の大群が迎えてくれる。洞窟では、僧侶がお祈り中。

休憩後、バトゥール湖とアバン山を正面に眺めながら、滑りやすい道を一気に下る。麓に広がる畑（トマトや唐辛子など）越しにバトゥール山を何度も何度も振り返る。

傾斜もなくなり、のどかな家並みを過ぎ、街中を歩いてホテルに到着。

水着を持って温泉へ。やっぱり下山後の温泉は良いね（温泉と言ってもプールだが）。バトゥール湖畔にあり、のんびりしたい所だ。1時間弱くつろぐ。

バトゥール湖をボートで風葬の村『トルニャン』へ。湖上からのバトゥール山は綺麗だ！昼食後、『ウルン・ダヌ・バトゥール寺院（世界遺産）』を、サロンを着て巡る。

ウブドのホテルに17:15着。部屋割りや明日の予定などを確認し、各部屋に入る。荷物整理もそこそこに、ベッドに横になる。

<2> 5月15日(金)アグン山主峰トレッキング(3日目)

僅か4時間弱の仮眠で、迎えのバスにてホテルを出発。1時間半ほどで『ブサキ寺院』奥の『ペンブカン寺院』駐車場（登山口）に着く。

2名の登山ガイドと小室会長そして私達8名の総勢11名で、歩き出す。

樹林帯の急な登りの連続で風は殆ど無く、ただただ流れる汗を拭き拭き黙々歩く。

前日の疲れと睡眠不足で、皆足取りが鈍い。それとは反対に、登山ガイドの歩きは早い。時々『プランプラン！（ゆっくりゆっくり）』と言っては、待ってもらおう。

樹林帯を抜けると、火山礫の滑りやすい急な登りに変わる。見上げるが、山頂らしきピークは見えず。振り返れば、雲海に『影アグン』がバッチリ！

やっと、『第一ピーク』に到着。アグン山山頂には、朝陽を浴びている数人の先行者がシルエットで見える。更に砂礫の緩やかな尾根道を30分ほど歩いて山頂に。

山頂からの展望は、絶景そのもの！昨日登ったバトゥール山を下に見る。ロンボク島の『リンジャニ山(3726m)』も雲海の上に頭を出し、振り返れば、ジャワ島の山々も遠くに望まれる。狭い山頂は我々のみで、無事登頂の満足感に皆の声が弾む。荒々しい火口を恐る恐る覗き見る。朝食を摂るが、パサパサしたパンで喉を通らない。

登ってきた道を下り、岩陰でガイドが準備してくれたバリコーヒーを飲む。しかし、粉っぽく、決して旨いと言えるものではない。皆同じ感想だったようだ。

下山後、ライステラス（棚田）を眺めながら昼食を摂り、ホテルへ戻る。

『バリ島最高峰登頂に満足。南峰は遠慮する』ということで、挑戦者は5名に減少。朝食弁当を『ナシゴレン』に変更依頼し、街中で両替した後、やっと横になれた。

<3> 5月16日(土)アグン山南峰トレッキング(4日目)

連日の睡眠不足の中、バスに1時間半ほど揺られて『パサール・アグン寺院』下の駐車場（登山口）へ。前日と同じ登山ガイド2名と私達5名の総勢7名で石段を登る。寝不足と疲れた身体には辛い。

やっと辿り着いた寺院でガイドが安全祈願のお祈りをした後、寺院の裏に回って登山道に入る。樹林帯の中をヘッドライトの灯りを頼りに歩く。

登山道に沿って、太い配管が埋設されており、『なんだろうなあ〜』と気になる。

いつの間にか樹林帯を抜け、急峻な岩場となり、休憩頻度が多くなる。次第に明るくなり、雲海が見事だ！大きな岩だらけの山頂にやっと到着。

東の空が赤くなり、待ちに待ったご来光だ！しかし、大きな尖った岩の後ろからで、感激も半減…？ 今日もしリンジャニ山が望まれる。荒々しい火口を挟んで、昨日登った最高峰が、朝陽を浴びて赤くなる。2日連続してアグン山主峰と南峰を登ったことに、他の登山ガイドも驚きというか、呆れ顔のようだ。

特注の『ナシゴレン』を食べ、登山ガイドが準備してくれたコーヒーを頂く。『旨い！』昨日とは違う。カップの底に沈んだ粉分を飲まなければ良いのだ。

岩場を下る。暗い中を登ってきたので気が付かなかったが、凸凹が多い火山岩の岩場の連続で、滑らないように慎重に下る。不思議に思った『配管』は、簡易ダムからの水道管で、今は乾期で、ダムには水一滴もなかった。

下山後、アグン山とライステラスを眺めながら、そして、3日間の登山の余韻に浸りながら、『ビンタンビール』のジョッキを傾けた。

ホテルに戻り、一休みした後、10名全員で、ホテル隣のレストランでインドネシア料理を味わった。

<4>コースタイム

- ・バトゥール山：(登山口 1,073m、山頂 1,717m、標高差 644m)
登山口 3:30…パストップ小屋 3:55…パサラグン寺院 4:35…第一小屋 5:20-5:35…
山頂 6:00-6:45…<御鉢巡り>…パストップ小屋 7:40-7:55…ホテル 9:30
- ・アグン山主峰：(登山口 928m、山頂 3,142m、標高差 2,214m)
登山口 23:40…水場標識 2:35…コリアグン寺院 4:50…第1サミット 6:30…
山頂 7:00-7:40…コリアグン寺院 9:20…水場標識 10:20…登山口 12:55
- ・アグン山南峰：(登山口 1,500m、山頂 2,900m、標高差 1,400m)
登山口 1:15…パサール・アグン寺院 1:20…南峰 6:10-7:10…簡易ダム 9:50…
パサール・アグン寺院 11:00…登山口 11:10



3日目：左後方ピークは「アグン山第1ピーク」
後方中央三角山は「バトゥール山」



4日目：パサール・アグン寺院より
後方、三角ピークはアグン山最高峰
右方、アグン山南峰

「バリ島サンライズ・トレッキング」下見報告

現地状況、特に登山情報が少ないので、下見での情報収集が出来たことは助かりました。東葛山の会の皆さんに感謝します。

最初の案内内容(日程)では、ハードルが高く感じている人もいます。下見の結果を踏まえて、実行委員会で再検討をしたいと思います。最初の案よりは若干、楽になると思います。決めかねている方は、安彦さんか広木まで相談下さい。バトゥール山のみであれば、どなたでも参加できると考えています。しかし、それでは物足りなさを感じるかとも思います。

そこで、2山(バリ島最高峰と第2高峰)を加える案を、検討しています。また、既に申込みをされている人の中に、バトゥール山のみで充分…という人もいます。このような考えから、『改訂版』を作成しました。

募集人数には、若干余裕があります。「お誘い」を参考に、ご検討をお願いします。質問・問い合わせをお待ちしています。(気軽にどうぞ！)